

口数の少ない俺でした。

小学校3年生位までは、歌が好きで合唱も楽しく歌いそしてみんなのまえで悪ふざけし、みんなを喜ばせて俺も楽しんでいたような記憶がある。小学校4年位からか、やはり体力、学力ともみんなより劣っていたのか自信がなくなり、おのずと口数も少なくなり目立たない俺であった気がする。あの時代は、友達の中にはやはりリーダーが居てその子のリードでことが進む、口数が少なく積極性がなくともそのリーダーが俺のことを気にかけて友達の輪に入れてくれる。「いじめ」という言葉が見つからないあの時代がある。

隣近所の同級生、そして上級生を「〇〇ニーニー（お兄ちゃん）、〇〇ネーネー（お姉ちゃん）」とよぶ、友達の親は、その友達の名前「ヤーナー（家近所での名前）」を前に付け「〇〇ター（の）カーチャン・トーチャン」とよぶ、農作業がなしたユイマール家族の時代。繁忙収穫期には3家族くらいが共同して農作業するから、自然にユイマール働力が生まれる、子供も役割分担責任があるので食べる生きる教育がそこで培われる。

旧正月にはその家族で、ひとつの豚を買いそして解体分ける、その豚にお包丁を入れる最初から好奇心旺盛で観察覚えている。今では考えも付かない。

川、田んぼ、山あそび

そうでありながら学校外では、自然との対話遊びは活発、美崎校区隣近所の子供は兄弟みたいに遊ぶ、遊びも上級生兄から全部手ほどきを受ける。川あそび、中学生になった兄貴達とぜんざいも炊いた、釣りした手長えびも焼きながら、そしてそこでパンツで泳ぐと汚れて親にばれるのですっぽんぽんで泳ぐ、その時代の川は綺麗でその水も気にせず飲んでました。ほとんどが田んぼで稲作の時代、カエルも沢山いてそれも採り食する。

田んぼの淵のあちこちに穴がありその穴へ手を入れ捕まえる。居る時で10カエルも、危ないのがハブもその穴でまち構えている。心配が先になりこれしたら危ないと何もさせない子供たちは悲しい、でもその場所環境もなくなったからそれも現代かな。

それも中学生の兄貴分が料理さばくかえるの頭をぶつり、きられても目はぎょろぎょろと鮮明に、鳥肉のようで煮付けで食べると最高。居酒屋などでたまにある唐揚げは無かった。

田んぼがほとんどなので自然の果物もいっぱい、ヤマキジ（果物の食べ歩き収穫）は、野いちご一番、ヒバラー（グアバ）、山ムム、シークワサー、バンキー、沢山実る。

そこにも難題がハブでした。でも噛まれるのはまれそんなに居なかった記憶。情報がなく子どもだから知らなかったのかな？

田んぼの池に落ち、パニック！

小学校1年位に友だちと田んぼあそび、その途中田んぼの横には池があり、そこにはフナとか川エビがいて、子供には深いところで、俺足を滑らし落ちて溺れそうになる、友達が2、3名いたので、又範囲もそんなにない池が幸いすぐに上げられどうてこと無かったが、その一瞬は自分では大パニック（マブヤー マブヤー）だったに違いない、その日から何

か元気がなかったらしい俺本人はそうでもないが、周りがそう思い、マブイ（魂）石がその池に落ちたから元気がないと、今はないがオーバー（おばあさん）にそのマブイをその池からよばせ、その日着ていた服とススキの葉の方を結んだものにマブイをのせてきて、遊んでいると兄貴がよびにきて「ヤー オーバーガ ヤーニクー クーチョンドー ハークイカニ」「おまえ、おばあが早く家に帰すようにと言っていたよ、はやく帰れ」帰ると、は衣着替えてと何も言わさないで着替え、そして結んだススキで頭を撫でられ、そして米3粒（ミハナ）頭の上に乗せる。おばあは酒とか準備し神の居る方角に向かい備え、東とか西とか海山の方角に米をまいて感謝、「はいこれで、マブイがもどってきたから元気になるよ」と、その時代はどこのおばあもこの事を習得し崇められていました。久米島のノロ（神女）の言い伝えがこの時代までは引き継がれていたのかもしれない、神事の日はおばあが当たり前のようにそこで神様と先祖に「ウートートー」お話している光景がありました。そのたびに米3粒（ミハナ）を頭の上に「琉神マブヤーのマブイストーン」はここからくる、危機の時「マブヤー マブヤー」と唱えるのは「私を守って、守って」と自分の石（魂）にお願いしています（沖縄は神を石に崇める例えば石巖當（T字路で道突当りにこの石を立て魔物が道に迷わないようにする魔除け）とか、神女のウガンジュ祈り所も石が多い）、いつの日か土曜日の朝早くテレビを付けると何となくひかれる番組には安心とほっと一瞬自分が子供の頃にタイムスリップしたような気が、私の年代のお父さん方はそう感じているかも、寝ている子供、家族みんな叩き起こしてまで観せました、いい番組です。「オーバー アリガトーエタンドー」「琉神マブヤー ありがとう」

忘れもしない大事！

俺が中学生になった1年生の時、我ら隣近所の中学同級生とひとりの小学生5年生をつれ山へクワガタ虫をとりにと、ひとりが「今日は探検もかねて、フンゾー（獣道）木の生い茂ったジャングル道から行こう」みんな恐る恐る賛成、そのことが大事に、薄暗いジメジメしたところを一行に黙々と歩く、目の前が明るく日差しがそろそろ現場に着くなと思って安心したとき、「アガー」痛い！小学生の子が列の3番目、俺が4番目、叫んだのは3番目の小学生、俺がその足元をみるとヒメハブ！ツチノコみたいなこのハブ。

みんなそれから冷や汗が、不幸中の幸いとはこれ、すぐそこはジャングルの出口。二人で足を下に薄暗いジャングルから出て、その足の第一関節を縛る。ひとりは大通りまで走り車を止める。ひとりが「カミソリないか」と興奮気味あるわけ出来るはずない。中学生がそこまでわかるとは、みんなで噛まれた足を動かさないように下にしてかつぎ、やっと大通りまで、ひとりが車を止めて待っていた軽貨物のおじさんをお願いして病院へ直行。二人はその子の付き添い、二人は親へ伝えの役目、付き添いも大変だったが、親に伝えるに行くのが俺とあと一人、どうして親に切り出そうかと何題。自分の親に言ってからと、たまたま俺の家で隣近所の母親がお茶していた、怒られるのは山どうしても切り出せないで親の前をウロウロモジモジ、親は察知する「イッター、ヌンガラアールスンナ」あなたたち、

何かあったのと、やっと事を伝えることができ一段落、それから後は親同士が手配、その時は済まない気持ちと反省がこみあげ小学生のこに辛い思いをさせてしまったことは本当に鮮明に覚えている。不幸中の幸い対処が早く後遺症もなく、でも病院で毒を出すため出来た傷をみるとほんとすまないと思う。

庭、たまり場あそび

空き瓶の底を割取り庭大きな長方形の階段状の線を引きブロックを作る真ん中線対象に、それで陣地遊び説明するとたくさんの文章になる、記憶も定かでないが残さないといけな
いと思うので、後で同級生幼なじみの記憶もたどりながら再現レポートを作成したいと
思う。ひとつだけ簡単な輪ゴム遊び、コンクリート階段か、コンクリート平面に一本の線
を引きそれを堺に、輪ゴム最低 10 個ずつとだしひとつにまとめ競技、メンコみたいに手で
輪ゴムを飛ばし、階段したか、線の向こう側で輪ゴムがかさない、その輪ゴム同士が重な
り目を作れば取得できる 3 つ、5 つと重なれば上級者。それを何回も繰り返す手も腫れ上
がり手相がクッキリなり、そこにあらゆる技術、ルールが生まれ子供たちの世界がそこに
生まれ輪ゴムも宝に変わる。そして、集会あそび場も成立、学校が終わり帰宅（時には帰
宅しないで）即、輪ゴム持ち寄り自然と集まりそこで競技が始まる。飽きると宝がビー玉
へと代わり色んなシーズンがつながる、子どもだけでその社会を成立させるところに、大
人の考えおよび権限もない自立する心が磨かれる。

美崎校区大運動会

美崎小学校の運動会は楽しいとの評判。

昔は生徒数が 400 人近くはいますので、おのずと美崎校区の規模も図り知れ経済生活も久
米島では 1 番と言っても過言ではない、マチャ（コンビニ）も沢山経営充実してました。
その時期の美崎大運動会は、真謝（東・中・西）、宇根真泊、の 4 チーム対抗でほとんどの
競技 100m、200m・・・幅跳び、高跳び、青年の野外への長距離ロード走を各チームごと
小学校低学年、高学年、中学生、高校生、青年、成人と代表選手を決め点数制で勝敗を決
めていた大掛かりな大会でした。人口があるから成立する事、今でも少人数なりになごり
を残そうと必死です、そこに美崎運動会の醍醐味があり楽しいのでは、主催運営は大変で
すその大変であればあるほど、観覧する人からすれば楽しいものである。俺も 1 年前は運
営する方でしたので、役員の苦勞と現状にかみすればプログラムを減らす考えが大でした、
しかし今年から観覧する方になり外からみると「楽しい運動会だったんだ」素直に感じて、
なるべく継続をそして楽しい美崎大運動会をいつまでも残し観覧したい気持ちが大きくなり
ました。美崎父母のますますのご尽力に期待します。

仲里中学校野球部に所属。

中学校に入学、思い出という野球部に所属し万年補欠で 3 年間ついやしたことに今の俺

があるような気がする。何の浴もなくレギュラーをとる考えすらない、いつもバッティングピッチャーか、外野でのボール拾い、4名位並びバッティング練習するので、ピッチャーはガードフェンスもないので何処からライナーが飛んでくるか怖い、その外野に飛んでくるライナー、フライを取るのが楽しく練習で一番充実してた時間でした、セカンドの補欠でしたが、連携プレーの練習で、監督がピッチャーになり、セットポジションし、セカンドへのけんせい球そのタイミングの意味が分からず何辺も無言で繰り返し監督を切らしてしまい睨まれた事を思い出します、「言葉で教えてよ」本音でした、言葉に出さなくとも出来る子はいますので、自分も悪いですが見出そうとしないなと感じてましたのであえて、みんなと一緒に居る練習出来るのが楽しく3年間休みなくボールフライへの目測落下地点への全速力一直線、その練習にはぼつとうしてました、その自分を観ていたコーチもいましたけど残念です、自己主張知なければ。ほんとうに口数の少ない女の子の前だと恥ずかしがり話もかけられない小心ものでした。勉強もそんなにできない方でしたので、親は何か一生懸命で人に迷惑をかけなければ良いような、勉強のことは学校任せ、先生の言う事を聞き先生を信頼すれば十分の時代、たまに夕方頃仕事を終え「はい宿題もってきて、勉強しよう」と学力の大事さを知る従兄がきて復習予習、そのときは嫌なおせっかいな従兄でしたけど、ある日、新品カセットレコーダー（ステレオ）をもって「ユー チケーバ」「はい、つかって」しゃいでもあった従兄はそれ以上の言葉は発しない、対して目の前のこの驚き感激は今でも覚えている、あまり贅沢できる家庭ではなく、ほしい者は我慢してたので、自分も感情を表に出さないで笑顔だけだったと思うけどその時の嬉しさが従兄に伝えられたかと「ありがとう、ありがとう」と今言えればと思うが、でもココにはもういないことが寂しい。松山千春、サザン、アリス、かぐや姫、アラベスク、ふきのとう・・・そのときは、アリスの「チャンピオン」がヒットしていて、ポリュウム全開でスピーカーを見つめドラムベースの弾む音を目で聞いて胸に響く衝撃感動でした、カセットを頭の上にし仰向けなり聞き大声で歌う姿を見て母親は何と思ったことか、いっそう音楽が楽しくなりステレオダビングのできる友達にお願いし、カセットテープを沢山ならべてました、それが参考書であればと思いますが良い思い出です。従兄に感謝「ありがとう」

野球、バスケット、バレー、テニス、吹奏楽の部活動

部活動は充実していて、仲里中学はいつも上位の方、沖縄本島遠征でも強いほうでした。何かしら伝統があって、野球部（美崎、仲里の謝名堂）・バレー部（泊）・バスケット部（比嘉）男子のデータですが各地域の先輩をみて入部を決める伝統があったかなと思えるほどでした。当野球部は、沖縄中央大会でも優勝を争うチームでベスト4までは常連で、当時の裁監督（沖縄水産）からスカウトされる選手までいましたが残念ながら入学までは行きませんでした。陸上部は今でも存在しないですが、シーズンには各クラブから選手を決めるのですが、やはり各部も上位クラスですのでスポーツの基本である陸上競技も短距離、長距離、跳躍と上位をしめて久米島の潜在が見受けられ、後に沖縄スポーツ指導者の魅力

ある島であったことは確かでした。野球、バスケ、バレー、短距離、長距離もすべてできるオールランドプレイヤーも何名も存在、本人何をやっていいのか悩んでいたかもしれない贅沢な悩みです。久米島出身の顧問、そして計画性のある長い勤務の顧問の貢献は大でした、今は生徒数も少ないのと、3年で赴任されますのでその伝統が消えている現状は、はからずともあると思います。顧問の先生「当時はお世話になり、ありがとうございました」

久米島高校（農業科）入学

高校も何を選択するのかは、兄姉が道を決めるみたいな兄が進んだほうを選んでいくというもので、兄二人が農業科でしたので俺も農業科にした当時は普通科よりは競争率は高かったですよ。久米島高校は特殊で、普通科（男女）、農業科（男）、家政科（女）総合学校で綺麗に別れていて時代を感じがします。現在では普通科（男女）、園芸科（男女）と男女平等と考えたいが生徒が少なくなりその一登での統一だと思う、その園芸科も無くなる方針を打ち出しているのが気がかり。久米島高校はバイク通学が許可されていて、高校に入学するとバイクがもてる免許がとれると何か大人になったひとつの夢達成感でもあり、当時は小学・中学生からは大人にみえてかっこよくあこがれで早く久米島高校に入学したい、こんな学校維持を心からお願いしたい、この事をひとつの問題とし探求してゆくと離島久米島の行く末が見えてくると思います、離島にしか解らない問題を久米島の知識あるかたのご尽力で久米島一致団結ののろし上げよう。泣き寝入りもしそうですが、奮起を持ちたい久米島高校卒業生として「久米島高校に、ありがとう」。

野球部⇒ボクシング⇒駅伝部

入学と同時に中学で野球していたメンバーほとんどが野球部に入部しましたが、何でか分かりませんが日が立つにつれひとりひとり退部してゆき、俺もそれにつられ退部しました。いままでみんなと一緒に練習するのが楽しかったことで続けられたもので寂しくもありましたが、それから一人一人自分の考えが別れて行くように大人へのひとつの鍵でもありました。新入生ですのでそれからなんやかんやとあり、誘いがあったのか忘れたが何か部活したいなとアンテナもはっていたのも確か、ボクシング部の門をたたき入部、同学級の二人が先に入部していてあたらしい部友とボクシングしました、それが母親に知れるようになり3ヶ月くらい練習活動してましたが、母親としては顔を殴られるのはと思うのでしょうか、顧問のところに来て辞めさせてと顧問のほうから「どうする」と、親に説得する意思もないがまま退部、続けたい気持ちも無かったかもしれない過酷なスポーツだと練習のなかで予感はしていた。「この部友と顧問にはお世話になり、ありがとうございました」。

高校2年からのスタート

それから帰宅部が続き、部屋に閉じこもり音楽鑑賞、勉強するわけがない、1年生の学年

はあっというまに過ぎ去った。2年生になり、バイクを手入れしていると、美崎校区の従兄（勉強教えた弟）と後輩が訪ねてくる、「駅伝部入らんねー」嬉しかった。二人は小さい時からずっと遊び仲間いわば兄弟同然、その二人に誘われて断れるはずない断る理由もない、あしたグラウンドにねと、それから駅伝部の門を叩くがトレパンは体育着しかない、姉のトレパンを無理やり貰いシューズもないとりあえずあるもので、グラウンドへワクワクもした。何かやることの好奇心の充実がはじまる事が嬉しかった。初練習は、ひたすらグラウンドをぐるぐるジョギング、走っている言葉だけ時間も何週も何週も何週も「何時まで走るの」と思いながらもくもくと走る、試している部分もあったかもしれない、所属しているのはみんな中学生のときの一流ランナーのところに無名、野球部では万年補欠、まして顧問の先生からは何も誘いが無いもの、すぐ辞めると思ったかもしれない。しばらくはジョグばかり、みんながインターバル練習のときはみんなが終わるまで外グラウンドをひたすらジョグ、ああ一緒に走りたい気持ちときつそうだなとうらはら、入部二月くらいから、徐々に本数を少なくインターバル練習もさせて貰えだんだん体もランナーぽくなる。部員とも打ち解けて、練習後は一言反省のことばをひとりひとり述べる、人前で意見も苦手な俺も一言だけは喋れるようになり大収穫。顧問もニックネームで呼ぶようになる「これがメチャクチャ嬉しいんですよ」存在感が無かった中学生の時を思うと天国。ああ！中学のときバスケ（体育の先生）の顧問に呼ばれた時も嬉しかったことを思い出します。嬉しい楽しくなるに伴い、だんだん走れている自分があったが、初心者病（疲労骨折）左膝の下内の骨の弱い部分がポコッと膨れ走ると痛い、しばらく走れない時期もありタイムとりと後はみんなの練習を見ているだけの苦痛、走りたい思いもより強くなった。だんだん走れるようになり3年生には高校駅伝4区を任せ久米高大会新で5位、タイムス駅伝には6区を任せ区間1位新で久米高2位と高校トップのチームに、その一員になれたのは、誘いに来てくれた幼なじみの後輩、従兄、そしてこの素人を我慢して教えてくれた志のある顧問があればこそです、久米高を4年計画で沖縄1位にする志、残念ながら目標は達成出来ませんでした、俺を変えてくれた部友に本当に感謝します。まだ言えてないけど「ありがとう」と思うたびに心にします。その従兄もまた、ココに居ないのがさびしい。競技レベルも上がれば、遠征費、合宿費と出費が重なり増して離島、サトウキビ収穫時期は練習あとのキビかつぎアルバイトをして部費遠征費を補う、暗くなりみんなのバイクのヘッドライトを使うこともしばし、父母会も活動活発になり栄養会そして遠征費の寄付金をお願い顧問も大変だったと思います、その時のご尽力下さった多くの方にお礼感謝申し上げます「ほんとにお世話になり、ありがとうございました」

沖縄大学入学

走るとは高校で終わりと思って進路のことなんて考えてもいない、いつも流れのままに事が進む、親父が病気で仕事ができなく進学は到底無理で、即就職の事を頭には考えてましたが、顧問の先生、親で事は進んでいて学費は当時独身の長男が考えると、そして沖縄

本島での住まいは当時独身の姉が大学の近くにアパートを借りると、職場は当時は高速道路もない具志川市（うるま市）中部病院まで1時間30分くらいかけて通勤で考えると「すまない」、学費免除のスポーツ推薦で沖縄大学に、駅伝部5名沖縄大学推薦と一般入学で決まった、認められたんだと思えば実感も湧いて来なかったような感じで、のほほんの自分でしたね。陸上競技部入部当たり前で、高校2年から陸上をはじめ2年もならないのにスポーツ推薦の学費免除恵まれてます、自分でも分からないうちに年々走れ記録もグングン伸び充実して、あの頃と比べ自分にも自信ついたような、3年次にはエース区間を任されるようになり沖縄でも名の通る選手になりました。推薦いただいた顧問、そして親の相談に協力してくれた兄姉、他関係者みなさんのお陰です「ありがとうございました」。

経験は心のなかから消えないだろう。

その中で一生忘れない事が、自衛隊員が那覇代表での沖縄一周市郡対抗駅伝の出場、俺も当時は那覇代表で参加2日間の沖縄本島をほぼ一周する大会で、自衛隊参加は許さない阻止活動が大がかりになり、前日のミーティングで「名幸、明日は相当な活動があるから、××さん（自衛隊の方）と交代で1区走るように」と「ハイ、わかりました」、当日スタートは朝の7時ですので朝3時起床の5時入（奥武山）、すでにカメラとか物々しい雰囲気、5時50分位からアップを始める、薄暗いので室内練習場その時からカメラのライトとかが気になり集中できない、イライラ、心配して陸上関係者も沢山、いざスタート地点へ行くと沢山の人が一杯、ゼッケンは那覇と記、その下に名幸と記載される「名幸！はずかしくないのか！」1年に1回の大きな大会そのために毎日練習して来ている、集中、集中の風船が破裂抑えきれなかった。「ウルサイ！ダメレー！」、それからスタートシグナルがなり、興奮状態で飛び出し先頭、他のチームも唾然状態で走る、グランド一周ゲートを出ようとしたら、目の前が人の壁那覇マラソンの制限時間ゲート人間鎖より凄、駅伝1区走らないといけない、その壁に突進他のチームはすり抜け、ターゲットは那覇の俺抜けれるはずがない、タスキで首を締められ必死に解き外し走れるはずがない、辞めた！後ろに退散すると目の前に大会関係者、「名幸！走ってくれ」「アレで走れないでしょう」1区が走らないとこの大会はだいなし（全国でトップニュース、報道関係の方YouTubeに貰えたらいいな、この映像は私の思い出にしたいと思うときがあります）、沖縄長距離界みんなに迷惑かける、そうこう思っている瞬間隙間が空いた、それいけとコースは奥武山陸上競技場ゲート（那覇マラソンの人間鎖ゲート）を抜け鳥居から国道に抜けないといけないのに無理、野球場の方から国道へ「チャーヒンジー」逃げるように走り国道へ出たら白バイ2台即座に反応して待ちかまえてました、それから10km走りますが、タスキがない前代未聞、涙が自然に溢れ出し白バイの後をただ泣きながら走るペースもわかるはずない、途中で他チームの一団皆んなも走る気持ちを削がれたたのか追いつき抜いて行きただ悔しくて、途中でタスキをもらい我に帰るとその区間はあつというま1位でタスキを渡しました。区間賞もあるはずがないコースを外れたのですから、しかし2日目も1区でしたがその日

活動はなくスムーズにスタートし区間1位文句なし、力は間違いないと監督会議で前日の区間賞も認められました。その時の悔しさと矛盾した気持ちは良い経験になりました。その日の白バイの方に「ありがとうございました」、そして区間賞を認めてくれた監督さん方に「ありがとうございました」。

※あの時は20才にもならない政治もわからない、駅伝のことだけでひとりの人間としてチームに加わり何も悪いことはしてないのに何で自分たちが責められないのといけない矛盾でした、こうして今沖縄の歴史とか読んでいると沖縄の現状が垣間見え胸を打つ、あの時の阻止した方々の気持ちがわかるような許せる気持ちになります。末端まで争うことになる苛立ち、どこにその苛立ちを向けていいのか解らない少数派沖縄の気持ち、現在でも進行形であるこの事が何時消えることかわからないがひとりのウチナンチュとして考えたい、そして担う子供たちに伝えたい。

タイムス駅伝の優勝

1位になることが夢で、この事を目標に練習していた、高校のときのくさしさもありました、大学では6名の久米高卒業が陸上部に所属するようになりその悔しさはみんな同じで大学2年次のタイムス駅伝には、1区、2区エース（俺）、5区、と久米高卒が選手になり念願の優勝、時は変わったけどこのメンバーそしてそばでささえてくれた3名で夢であったことが、テープを先に切ったときには自然に高校時代の事が浮かび、涙がとまりませんでしたすごく胸に深く良い思い出です。「高校からの部友に、ありがとう」そのひとりがもうココにはいないのが悔しくて寂しい。大学でも宮古、石垣、やんばる、糸満、佐敷、那覇と色んなところ出身の部友、学友もでき大収穫。いい友達に巡り会うことができたことに「ありがとう」お世話になりました。

思い

就職、陸上競技続けたいが沖縄では、それで生活できることはない心の甘さにおちいる。5歳上（当時25歳）の兄に「陸上競技だけでは沖縄では飯くえないよ、そのことも考えないと」と何を言っていたのかその時になり分かる事に、県のトップレベルまでの選手にはなるが、沖縄にはノンプロはないオファーが有るはずない、いままで事が周りから進んでくることの甘え、これから自分で切り開いて行かないと行けない現実、頭の片隅には走りたい事を思いながら就職活動に職を点々としました、練習もしない、大会もでない、時が立つにつれ、競技の場から遠くなるにつれ気持ちもうすれ、どうでも良いようになりました。家具屋の流通センター、電気工事屋、航空貨物の契約ドライバー、大阪で食品倉庫の配送業そのひとつひとつの出会いがほんとにいい経験させてもらい、その時にお世話になった会社みんな「ありがとうございました。」ほんとに優柔普遍でご迷惑おかけしました「ありがとうございました」。走ることを忘れないといけないなど、未練がましくなる自分もあり、それから不規則な生活で体をいじめこわしてしまい、久米島にはいずれ帰る考えもあ

りましたので 30 歳の時に U ターン久米島の会社に勤めました、健康のためにもジョギングを始めるようになり、結婚もしあの時の自分も許せるようになり、人より早く走れる練習環境でないとだめのメンツもなくなり、ゆっくり久米島一周マラソンも走るようになり 8 年位のブランクでしたが楽しく走れていることで、そのころから走りたいなと競技への思いがふたたび芽生えてきてました、会社（その時の社長がカセットレコーダを頂いた従兄）も理解あり事務関係の仕事で月 200km と走れるようになり、徐々に体が思い出してましたがそんな簡単なモノではない長くは続かず、会社が傾くとそれからがたがたと色んなことがかさなり走れる状況気力もなくなり、それからあっという間に 10 年が立ち、そのことも和らぎ現在 48 歳もう最後のチャンス 5 年かもしれないせめて 53 歳までに 1 回はマラソンを完走してみたいそう思ってます。「沖縄では陸上競技だけで飯くえないよ、そのことも考えないと」の言葉をかけた兄も今はもうココにはいない、その兄また今までお世話になっているひとへ感謝の気持ちをマラソン完走まで走りながらお礼したいと思い、又何があるかわからないけど。